

地域貢献に携わる意味に関するライフストーリー研究

1190448 亀井 桃子

高知工科大学 経済・マネジメント学群

1. 研究の背景・目的

少子高齢化が進む日本社会のなかで、都市地域への人口集中と農山村地域の過疎化現象は高度経済成長期以降、歯止めがかからない状況である。

〔1〕鈴木 2014)によると、近年においては、市町村の財政難から過疎集落に対する行政支援が滞り始めているばかりか、住民の高齢化が集落維持機能を著しく低下させている。山間地集落の維持・再生の危機がクローズアップされ、行き詰まりをみせる山間地政策をどう打開すべきか議論されている。

高知県梶原町松原区に位置する、「久保谷セラピーロード」は2007年に国が認める森林セラピー基地に認定され、当時区長であった、『下元廣幸氏』を中心にセラピーロードの維持管理団体を立ち上げた。

しかし、役場からの補助金から人件費を出すのが厳しく、下元氏は、無報酬で、1人で、全て手作業で、維持管理作業を行っている。大規模な災害後は命の危険と隣り合わせであるのにも関わらず、必死に守ってきた。次世代の後継者は見つかっていない。

そこで本研究は、下元氏がなぜそこまで命を懸けて、セラピーロードを守るのか、また、なぜ1人でこの維持管理作業を行っているのかをインタビューを行い、人生史の視点から、維持管理作業に関わることを意味を見出すことが目的である。

これに基づき、地域社会にインパクトを与える手法のひとつとして、“紙芝居”という一種の芸術作品を提案する。

2. 研究方法

2.1 現地調査

高知県梶原町松原区の概要について述べる。松原区は梶原町の中でも比較的暖かい地区で、地域に対する愛着と住

民の連帯感が非常に強い地域である。町内一の高齢化の進行と国有林野事業の縮小等による急激な人口減少という厳しい状況におかれている。



図1 高知県梶原町松原区の位置関係

2.2 現地概要

松原区の見どころとして、『Che-moi シェ・ムア』という自家製天然酵母のパン屋さんがある。国産小麦を使用するなど、材料にこだわり「安心・安全・おいしく」焼きあげる。シェ・ムアのパンを求め、遠方からたくさんの人で賑わっている。



図2 シェ・ムア 内観・外観写真

また、『あいの里まつばら』という直販所は、畑からとれたばかりの野菜を販売しており、その野菜で地元の方が作るお惣菜や、甘みと辛みのハーモニーが絶妙である「唐辛子あんぱん」など、あいの里まつばら限定商品を揃えている



図3 あいの里まつばら 内観写真

そして、今回の研究の題材となる、『久保谷セラピーロード』は、全国に30数ヶ所ある「森林セラピー基地」の中の一つで、平成19年に認定された。

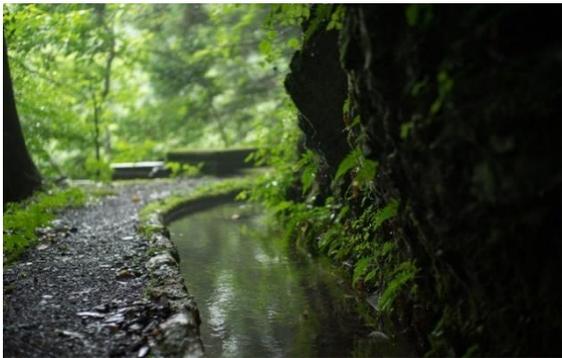


図4 久保谷セラピーロード 風景写真

約3kmのコースの標高差がたった10mというほとんどフラットなロードであり、豊かな水のある風景や四季折々の景色が楽しめ、「森林浴効果」を体験することができる。



図5 久保谷セラピーロード 著者撮影

実際に高知県梶原町松原区にて、ボランティアに参加をした。参加したボランティアとしては以下の3つである。

① 梶原町役場インターンシップ

(2017年9月)

② 松原セラピーロード祭り

(2017年11月・2018年11月)

③ 松原デイサービス訪問・イベント企画

(毎月第一水曜日)

これらの活動の中で出会った、下元氏の生き方に惹かれ、インタビューの協力を要請し、後にインタビューを行った。

2.2 調査対象者の概要

本研究でインタビュー調査となった者の概要を述べる。下元廣幸氏は79歳の男性で、現在は久保谷セラピーロードの管理者兼松原まろうど会の会長をされている。

1回目の調査(2017/12/13)：下元氏(約90分)

2回目の調査(2019/1/22)：下元氏(約120分)

3回目の調査(2019/2/1)：下元氏(約3分)

インタビューの音声はすべて録音し、書き起こしを行った。書き起こしのページ数は1回目の調査では、A4用紙22ページ、2回目の調査では、A4用紙37ページ、3回目の調査では、A4用紙2ページである。

2.3 分析方法

本研究の分析には、([2] 原・沼本 2004)が開発したライフストーリーの分析方法を用いる。

(原・沼本 2004)は、調査対象者に自分の人生について自由に語ってもらい、過去の人生時期の語りにつけられた時間には密度の濃淡があることや、ライフストーリーにおける空白の時間の存在を確認する。これにより、聞き手が空白の時間をも共有しながら聞くことの重要性を示しており、言及された回数の最も多い出来事をつなぎ合わせて、その人の物語を構成した。

本研究は、(原・沼本 2004)調査方法とは真逆である。物語というのは、ひとつの場面だけでは表現出来ず、ふたつ以上の場面が読者の頭の中で重なり合うことで成立する。

本研究では、どの場面を設定すればよいのかというのを、試行錯誤しながら探索する方法を用いる。重要となる、伏線と結びの両場面が高い頻度で言及される保証はない。

だからこそ、片面となる伏線を意図的に掘り当てるといふ視点からインタビューを行う。

3 データ収集結果

3.1 略歴

下元氏の略歴を記載する。

16 歳～22 歳	実家の農業を手伝いながら、営林署へ勤務 (現在は森林管理署)
23 歳～59 歳	松原郵便局勤務
59 歳～71 歳	松原区長就任
68 歳～現在	久保谷セラピーロード 案内人
71 歳～現在	まろうど会 会長

3.2 “食” することの必要性(物語①)

食料を確保するため、自給自足であった時代に生まれた下元氏は、幼少期の頃から、実家の農業を手伝っていた。米作りのために必要であった“水路”の維持管理作業を行い、水質を守らなければならなかった。肩が腫れて悲鳴をあげるほど荷物を運んだり、決して楽な作業ではなかったが、生きてくために、逃げ出すこともなく、必死にやり抜いてきた。

下元氏：いわゆる、米つくらないかん、食料作らないかん、そういう使命というがあるので、逃げるわけにはいかんわね。でもコメというものを主食で大事にお米が食べれるってことほど大事なことはな かったし。そういう意味では“食料”に力を入れないかん時代じゃきね。

自らの身を削ってまで、作業に取り組む理由の背景には、現在のようにお金でモノがすぐ手に入る時代ではなかったため、生きていくために自らの手で食料を確保しなければならなかった。

3.3 生まれ変わり(物語②)

榑原町が潤うためにセラピーロードになる場所はないかと榑原町役場の産業振興課の職員の方が、探していたところ、久保谷にある小川沿いの小道を見つけた。そして 2006 年に、国による認定調査が行われた。セラピーロードに認定

になる時の下元氏の気持ちはどのようなものだったのか。

下元氏：全くその、森林浴のこととは後でわかって、当時セラピーロードということは全国的にもまだまだ有名なあれじゃなかったし。セラピーロードでええもんか、ってそのとき分かったぐらいでね。やっていきよるうちになかなかええもんじゃねえって。

実はこの小川こそ、かつて下元氏達が守っていた旧農業用水路だったのである。

3.4 原動力(物語③)

“セラピーロード”の言葉さえも無縁であった下元さんだが、幼少期から思入れのある場所が別の形として生まれ変わるといふことに、嬉しさと期待があった。

下元氏：まっ、あの～バトンタッチじゃないですけど。米作りの水路から全然変わった方向で水路が生きていくと。

セラピーロードとして生まれ変わったこの小川を下元氏がただひとりで維持し続ける原動力は次のようなものである。

下元氏：もう、自分にとって、やりたいことが、好きなことができるじゃいか、なによりそれが僕にとっては一番のご褒美じゃけえ。

昔から誰にも頼らずに、自分たちで水路を守って食料を確保し、生きていた時代か現在、下元氏は誰にも頼らずに、食料とは違うご褒美を手に入れている。下元氏の生き方には、他に頼る精神がないということが一貫している。

3.5 未来への憂苦(物語④)

自分は維持管理に喜びを感じているものの、今一番の懸念は自分の体が動かなくなった後のことである。

下元氏：(維持管理作業は) すべてボランティアでしょ？
だから難しいわけですよ。僕は構わんけど。

だから、今までの維持管理活動についてほとんど誰にも話したことがない。

下元氏：(役場を含め、梶原の人たちは) あんまり知っていないのかもわからんね。気持ちは。私が思っっちゃうような気持ちは、ええ。

このように、周囲の人に対して自らの思いを伝えてこなかった下元氏は、次世代に対する不安を抱きながら、現在もひとりで維持管理作業を行っている。

4. 結論・今後の課題

今回の研究の題材となる、久保谷セラピーロードは膠着状態に陥っており、人を動かす装置が必要である。そこに長年携わる下元廣幸氏のライフストーリーインタビューを行ったうえで、彼の過去の出来事や思いを地域住民を中心に発信し、社会発展に貢献できる“紙芝居”を作成する。

(原・沼本 2004) は、発言の頻度の高い場面を選び、物語を構成する手法であるが、本研究は真逆の手法を取り、“紙芝居”の原案となるものが出来上がったというところまでは辿り着いた。

“紙芝居”という芸術作品を提示し、地域にインパクトを与えることによって、久保谷セラピーロードに関わる認識や行動が変化することがあるとすれば、本研究は新たな手法を提案したということになる。

5. 参考文献

〔1〕鈴木康夫(2014) 中山間地域の再編成, P. 63「土地利用の変遷」

〔2〕原祥子, 沼本教子(2004) 老いを生きる人のライフストーリー—介護老人保健施設利用者における自己の人生の意味づけ—

図1 高知県梶原町松原区 位置関係

<http://www.pikara.ne.jp/matubaranabi/index.html>

図2 シェ・ムア 内観・外観様子写真

<http://www.town.yusuhara.kochi.jp/archives/003/201803/d3fcbf95c63cb279651189f15fec5bdf.jpg>

<http://www.town.yusuhara.kochi.jp/archives/003/201803/7ba8557f8f9cfa27e7fd0cb2ac5591e5.jpg>

図3 あいの里まつばら 内観様子写真

https://www.google.co.jp/search?q=%E3%81%82%E3%81%84%E3%81%AE%E9%87%8C%E3%81%BE%E3%81%A4%E3%81%B0%E3%82%89&source=lnms&tbm=isch&sa=X&ved=0ahUKEwiPkeXE8ajgAhWDzmEKHe_iCOIQ_AUIECgD&biw=1263&bih=900&dpr=0.95#imgrc=UvmVX9ZexP_UBM:

図4 久保谷セラピーロード 風景写真

<http://www.town.yusuhara.kochi.jp/archives/003/201803/7ba8557f8f9cfa27e7fd0cb2ac5591e5.jpg>